



生活支援コーディネーターを

ご存知ですか？

第7回

秋田市長寿福祉課で実施している「高齢者生活支援体制整備事業」に基づいて、平成30年4月より、市内にある全ての地域包括支援センターに「生活支援コーディネーター」の配置が義務付けられました。そこで外旭川地域包括の生活支援コーディネーターである佐々木裕美さんにインタビューしてきました。



外旭川地域包括支援センターコネク
生活支援コーディネーター
佐々木 裕美

Q 生活支援コーディネーターはなぜ配置されたの？

全国で少子高齢化が進み、介護を必要とする高齢者が増える一方で、介護の担い手となる若い人は減っていく状況です。団塊の世代が75歳以上となる2025年には、秋田県の介護サービスを支える人が約2800人不足することが予測されています(介護人材にかかる受給推計(厚生労働省)より)。これから介護保険のサービスだけに頼るのではなく、地域での支え合いを強化し、地域全体で高齢者を支えていくという考え方に基づき配置されました。

私たちは、積極的に地域に出向き、住民の皆さんの知恵や工夫などで実現しているさまざまな支え合いを活性化させる役割や、調整役を担っています。

Q 生活支援コーディネーターは具体的に何をやるの？

活動内容はさまざまな地域性があるため各地域包括によって異なりますが、地域に合わせた活動を企画しています。実際に外旭川地域包括で取り組んでいる主な4つの活動内容を紹介します。

① 社会資源マップの作成

まずは、自分の担当する地域を知ることから始めています。地域には町内会のサロンやサークルなどの高齢者が集まって楽しめる居場所・宅配してくれるスーパーや弁当屋・草とりをしてくれる便利屋など高齢者の暮らしに役立つ社会資源がたくさんあります。そういった情報を協議体会議や訪問活動を通して集め、大きな地図にまとめていきます。

この店はお弁当の宅配をしてくれるよ!



社会資源マップの作成

② 広報紙の発行

3カ月に一度、広報紙「つながり」を発行しています。その中の「サロン紹介」コーナーで、家に閉じこもらず、サロンやサークルなど外に出かけられる自分の居場所や、通うことのできる場所を地域の皆さんにお知らせしています。あまり知られていない居場所を、多くの人に知ってもらおう機会になればと思います。

③ すでにあるサロンの活性化

さまざまなサロンを訪問し、健康講話や体操を行うなど、サロン活動をより充実させるお手伝いをしています。また、必要に応じて講師の先生を紹介したり、チラシ作りなどの広報活動のサポートをすることもできます。

④ 新しい居場所づくり

「この公民館でも、集まりがあればいいのに…」など、必要とする声に応え、新しい居場所づくりを応援します。その地域に不足しているサービスを見つけ、開発していくことも大切な役割のひとつです。

これら具

体的な取り組みを進めていくために、今年度4回(各包括で異なる)地域で活動している関係者の方々に集まっていたとき、協議体を開催しています。協議体は、目標



協議体開催の様子

Q 佐々木さんが目指す目標を教えてください

す地域づくりの意識統一の場となっています。

このような活動を通して、地域に住む高齢者全員が「歩いて通える場所に楽しめる居場所を作り、少しでも長く元気で過ごせること」「そして、「もし介護が必要になっても、地域にあるさまざまなサービスを利用することで、住み慣れた家に暮らし続けることができること」が目標です。とても大きな目標ですが、まずは一人の高齢者が明日の楽しみを見つげられる地域づくりを取り組んでいきたいと思っています。



みんなで集まって介護予防



定期的に発行している広報紙